

高潤滑性焼結合金すり板

【概要】

パンタグラフすり板はトロリ線としゅう動しつつ最大約2,000 Aの電流を集電します。この電流は離線時にはアークとなりすり板を損耗させます。すり板には、自身の耐摩耗性と相手材であるトロリ線を摩耗させにくい特性が同時に要求されます。

在来線用銅系焼結合金すり板に、近年の固体潤滑技術の進展を反映した改良を加えることで、すり板・トロリ線双方の長寿命化を実現するすり板材質を開発しました。

【特徴】

添加する固体潤滑成分の種類、組成、粒度、組合わせ等を最適化することで、すり板としての耐摩耗性を損なうことなく相手材であるトロリ線の摩耗を大幅に低減させることができました。

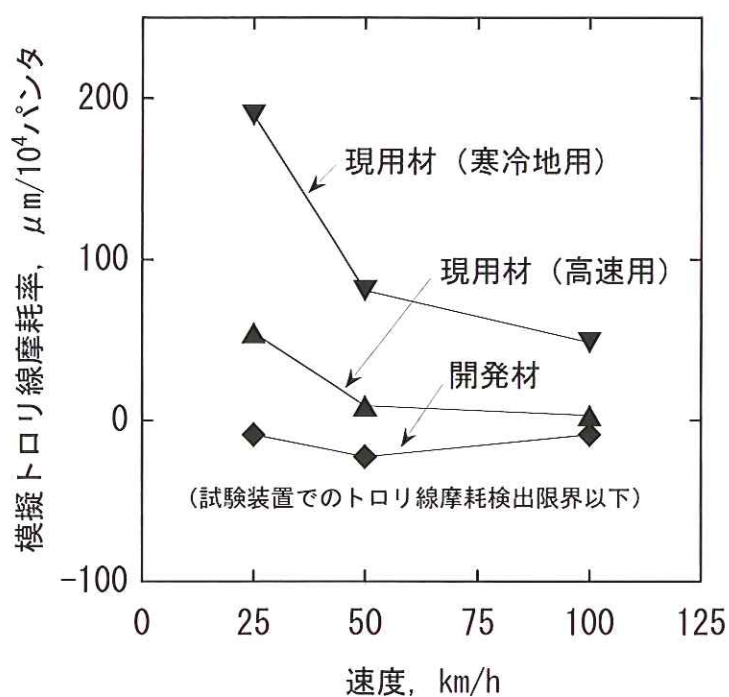
トロリ線の交換には経費上・設備運用上大きな負担が伴うことから、このすり板を使用することで経営上大きな効果が見込まれます。



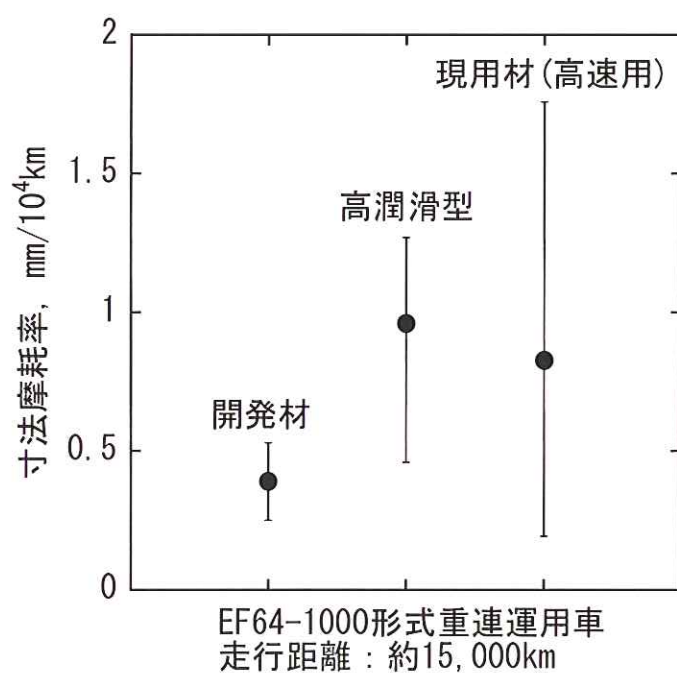
高潤滑性焼結合金すり板の取付け状態例

【用途】

銅系焼結合金すり板の物性規格値を全て満たしており、全ての車種・線区で使用できます。またトロリ線側の摩耗が従来の焼結合金すり板より小さく、カーボン系すり板と併用する場合も良好な特性を発揮します。



○開発材はトロリ線の摩耗が極めて少ない



○開発材はすり板の摩耗が極めて少ない

【実施例】

JR各社の電気機関車、首都圏の大手民鉄、公営鉄軌道等で利用されています。